

ふれあい

編集発行

社会福祉法人 京極町社会福祉協議会

〒044-0121北海道虻田郡京極町字三崎68番地

TEL(0136)42-3681 FAX(0136)41-2031

Eメールアドレス

kyogoku-fukushi@blue.ocn.ne.jp

ホームページアドレス

<https://www.kyogoku-shakyo.or.jp/>



この広報は赤い羽根共同募金の助成金で印刷されています。

コロナ禍以前の活動も再開し始めました。
地域福祉を進める中で、人と人がふれあう機会は必要不可欠だと思います。
ふれあいを絶やさないような働きかけを職員一同努めてまいります。京極町の皆様、何卒
お力添えをよろしくお願いいたします。



インスタグラム・フェイスブックでも
適宜情報を発信しております！
是非ご覧ください！



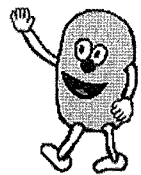
instagram



facebook

社会福祉法人京極町社会福祉協議会

令和5年度
基本方針



京極町社協には、多くの専門資格を有する職員が所属しています。地域包括支援センターや介護予防センター、成年後見制度の中核機関である生活サポートセンター、デイサービスや訪問介護、居宅介護支援事業所などで専門性を活かして業務にあたっています。これらの事業は社協が必ずしも実施すると決められている事業ではありません。デイサービスなどの介護保険事業は、利益が見込めない現状のため、介護保険制度開始の2000年から民間事業所の参入がなく、社協が町から補助金を受けながら運営しています。また、他の市町村では直轄で事業運営することもある地域包括支援センターや成年後見制度の中核機関を社協が受託し運営していることもあります。このように、私たちが様々な福祉活動を展開していく理由は、私たちが社会福祉協議会であるということです。

社会福祉協議会は、地域や地域で暮らしている人の困りごとや要望に対して地域の皆様と共有・協議し、参加協力して頂きながら「福祉のまちづくり」を安心して生活することができ「まちづくり」を目指して様々な活動に取り組んでいく組織です。自分や家族の力では困りごとが解決できないとき、社会福祉協議会は独りぼっちにならないで相談できる場所でありた

いと思っています。そして必要時に専門性がある支援が提供できるようにサービスを提供できる体制を整えていくことが重要です。

一方、町内で行われている住民同士の支え合い活動(互助)を推進していくことも社協の重要な機能となっています。社協は前述のとおり住民や関係者が地域の課題や困りごと、より良い生活の向上について共有し協議し推進する場です。京極町では、福祉委員協議会や民生委員協議会、契約町内会との見守り定例会、きょうここや各事業者団体の役員会など、地域の中で様々な話し合いの場があります。社協がこのような場面に混ざって頂きながら地域の課題を把握し、協同のための多様なつながりを生み出すことが求められます。支え合い活動や誰かのための活動から、「京極町に暮らしてよかった安心」という実感をもつても多く共感できる取り組みができればと思います。

令和5年度は地域の見守り体制充実、地域の居場所づくり推進と重層的支援体制整備事業が最終年になることから多様な支え合いのネットワークを行政や関係者、住民の皆様と共有していきたいと思えます。「住み慣れた京極町で生き生きと暮らせるように」その喜びを共感できるように、職員一同取り組んでいきます。

令和5年度事業計画(総務課担当)

京極町愛情資金貸付事業・生活福祉資金貸付事業

(内容:高齢者世帯や障がい者世帯、低所得世帯に必要な資金の貸付と相談支援)

移送サービス(内容:透析患者の送迎、高齢・障がい者世帯等への町内の通院支援)

配食サービス(内容:高齢・障がい者世帯等への夕食の宅配)

除雪サービス(内容:70歳以上の高齢・障がい者世帯の除雪支援)

電話サービス(内容:週1回程度、電話による安否確認も含めた相談支援)

福祉用具・行事用備品の貸出し(内容:個人や団体へ車いすや行事用テントなどの貸し出し)

ほかほかまつり(開催時期:10月を予定)



上記事業の詳しい利用条件や料金については、福祉センターまでご相談・お問合せ下さい。

令和5年度収支予算

【支出の部】

科 目	予算額 (円)
人件費	139,571,000
事業費	9,822,000
事務費	36,558,000
貸付事業支出	800,000
共同募金配分金事業費	2,309,000
助成金支出	60,000
負担金支出	234,000
ファイナンスリース債務の返済支出	891,000
積立資産支出	4,920,000
予備費	50,000
支出合計	195,215,000

【収入の部】

科 目	予算額 (円)
会費収入	1,070,000
寄付金収入	1,000,000
補助金収入	43,094,000
受託金収入	118,152,000
事業収入	1,035,000
貸付事業等収入	700,000
介護保険収入	25,566,000
受取利息配当金収入	10,000
積立預金取崩収入	4,588,000
収入合計	195,215,000

令和4年度 決算報告

【貸借対照表】

(令和5年3月31日現在) (単位:円)

資産の部		負債の部	
	当年度末		当年度末
流動資産	8,766,832	流動負債	15,219,139
現金	42,950	未払金	6,474,061
預貯金	2,579,514	1年以内返済予定	737,605
未収金	4,899,463	預り金	1,247,660
立替金	8,200	仮受金	0
前払金	1,236,705	賞与引当金	6,759,813
仮払金	0		
固定資産	81,445,045	固定負債	39,143,076
基本財産	1,591,613	リース債務	1,097,974
定期預金	1,591,613	退職給与引当金	38,045,102
その他の固定資産	79,853,432		
土地	6,502,525		
建物	58,532		
機械及び装置	2		
車輛運搬具	1,714,854		
器具及び備品	2,064,496		
無形リース資産	0		
退職給付引当資産	38,443,246		
その他の積立金	29,915,777		
福祉基金	8,887,603		
愛情資金積立金	6,587,344		
奨学基金積立金	10,371,416		
未来へつなく夢基金	4,069,414		
愛情資金貸付金	1,154,000		
資産の部合計	90,211,877	負債及び純資産の部合計	90,211,877

【資金収支決算】

(単位:円)

収入の部	決算額
会費収入	1,049,000
寄付金収入	1,894,741
補助金収入	47,388,284
受託金収入	104,563,066
貸付事業等収入	105,000
事業収入	1,764,830
介護保険収入	26,281,334
障害福祉サービス収入	513,063
受取利息配当金収入	646
積立資産取崩収入	3,000,000
その他の活動による収入	135,822
前期末支払資金残高	323,413
収入合計①	187,019,199
支出の部	決算額
人件費支出	133,189,870
事業費支出	8,078,083
事務費支出	35,415,969
共同募金配分金事業費	2,430,010
助成金支出	50,000
負担金支出	271,000
貸付事業等支出	100,000
ファイナンス・リース債務の返済支出	1,344,002
積立預金積立支出	5,066,668
支払利息	28,486
支出合計②	185,974,088
繰越金① - ②	1,045,111

令和4年度賛助・一般会員報告

【期間:令和4年4月~令和5年3月】

- ◎一般会費【町内世帯】 計1,094戸
- ◎賛助会員【個人】

今年度も町民の皆様の温かい御厚志に対して厚くお礼申し上げます。
ボランティア・市民活動、小地域活動などの事業や、在宅福祉サービス
事業などへ活用します。
(敬称略)

西方 清徳	阿部 鋭右	菱田 英利	菊地 憲一	桜 貢	中村 美智子
堅田 光良	竹浪 クニ子	堅田 芙美子	池元 豊	佐藤 明	佐藤 絹子
有末 義美	大清水 昭子	大木 勝彦	久保 英雄	柳原 保	立川 勝雄
片田 幸夫	山崎 一雄	辻 征二	長壁 千代子	篠原 政彦	多田 英男
船場 実	中村 恒男	長谷川 敦	末吉 光恵	鳩沢 秀子	桜 トシ子
柴山 悟	富成 邦彦	横川 広	四宮 幸一	大場 美智子	※他匿名者多数

◎賛助会員【法人・団体】

(敬称略)

宗教法人 龍門寺	JAようてい京極支所	川崎建設 株式会社	北海道信用金庫京極支店	京極町議会議員会
宗教法人 光寿寺	株式会社 道南富士コン	有限会社 藤沢デンキ	株式会社 羊蹄清掃社	計29件
宗教法人 広徳寺	株式会社 中村組	有限会社 ヤマトモリ	(株)バイオニアフーズ	
菊地建設鋳業 株式会社	株式会社 桜組	株式会社 鈴木商事	有限会社 古屋建設	
株式会社 高瀬製作所	樋口電気工業 株式会社	有限会社 京極石油	養護老人ホーム 慶和園	
ローソン京極店	有限会社 赤木農産	久保砕石工業 株式会社	ユニットケア 慶和園	
ようてい森林組合	京極建設 株式会社	株式会社 京極産業	宗教法人 北神分教会	

京極町社協の活動を応援してください ~賛助会員の募集~

京極町社会福祉協議会では、活動に協力していただける賛助会員を募集しています。
みなさまから頂いた賛助会費は、京極町の福祉サービスを推進する貴重な財源として、様々な事業に役立っています。京極町社協の活動に賛同いただける方につきましては、ぜひともご協力をよろしくお願い致します。

会費 一口...1,000円

問い合わせ先 ☎0136-42-3681

京極町社会福祉協議会事務局 担当 藤波

地域福祉課地域福祉係

令和4年度 主な活動

生活支援体制整備事業

*生活支援コーディネーターを中心に、「地域での支え合い活動のさらなる広がり」と「高齢者が生き生きと社会参加できる地域づくり」を軸に地域住民と一緒に様々な活動を行ったり活動を支援させていただきました。主な活動としては、

- ・除雪困難世帯へのマッチング支援等（ニーズと取組のマッチング）
- ・つどいの場やサロン活動の立ち上げ支援（資源開発）
- ・町内会を対象とした地域住民との座談会（ネットワーク構築）

この他にも沢山ありますが、事業担当者として一番大切に考えていることは「京極町だから安心して暮らせる。そのためには？」を住民の皆様と一緒に考えることだと思っています。次年度はさらに住民の皆様とのお話し合いを通して支えあいの輪を広げていくため皆様のもとへお邪魔いたします。よろしくをお願いします！

*生活支援コーディネーター（以下、SC）とは「支え合いの仕組みづくり」や「高齢者の生きがいづくり」に向けて住民や関係者をコーディネート（調整）し、高齢者が暮らしやすい環境づくりを推進する人です。



座談会の様子



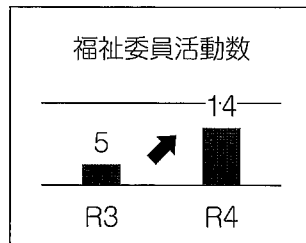
除雪ボランティアの皆様

地域力強化推進事業

○福祉委員活動の推進

令和4年度、福祉委員は30名が選任され、見守り活動や福祉委員協議会への参加、その他にも各町内会での活動周知、生活支援など様々な場面で活躍がみられました。

少しずつ認知度も上がっていますが、来年度は周知活動により力を入れていきます。



活動状況アンケートより

○子どもの福祉教育・居場所づくり

福祉教育や地域での子どもの活躍の場として「ゆるスポーツ大会」「子ども0円食堂」などの子どもを中心とした事業に重点的に取り組んできました。小中学校や教育委員会とも連携し、子どもたちと地域とのつながりを作ることができ、体験の中で子どもたちの気づきや学びを深められた1年となりました。来年度は学年や対象を広げ、より多くの京極町の子どもたちの活躍・楽しく学ぶ場づくりを行っていきます。



子ども0円食堂の様子

令和5年度 活動計画

活動目標：子どもの安心と地域活動の居場所づくり
地域福祉推進のための関係機関の
ネットワークづくり

○福祉委員活動の推進

- ・福祉委員の周知活動
- ・福祉委員協議会の実施
- ・活動状況の聞き取り

○子どもの福祉教育・居場所づくり

- ・ゆるスポーツ大会
- ・子ども0円食堂
- ・きょうさぼ隊
- ・活動報告会

○団体活動の支援

- ・京極町共楽クラブ
（本会、ゲートボール、パークゴルフ、カラオケ）
- ・京極町身体障害者福祉協会
- ・京極町ヘルパーSUNの会

○小地域ネットワーク活動

- ・地域見守り協定
- ・見守り体制推進協議会
- ・高齢者緊急通報システム
- ・高齢者鍵預かり事業

○ボランティアセンターの運営

○サロン活動

- ・ふまねっと、ニュースポーツサロン

○共生型地域福祉拠点事業

京極町生活サポートセンター

令和4年度事業報告
令和5年度事業計画

○法人後見受任事業(社協独自事業)

裁判所の審判に基づいて、法人で成年後見人等を受任します。原則として京極町在住者を受任対象としています。

令和4年度新たに2名受任し、計7名受任しています。

○日常生活自立支援事業(北海道社会福祉協議会委託事業)

ご本人との契約に基づいて、日々のお金の管理や福祉サービス利用の援助を行います。

利用料は1回につき1200円(生活保護受給者の方は無料)。京極町では現在1名が利用されています。

○京極町生活サポートセンター運営事業(町委託事業)

成年後見制度利用促進基本計画に基づいて、中核機関を運営しています。

各制度の周知や相談の受付、裁判所への申立て書類作成に関するアドバイスを行います。成年後見制度の担い手となる、市民後見人の養成講座・フォローアップ研修(年2回)も行っています。

令和4年度は、東京の紙芝居師「せんべいさん」にお越しいただき、住民の方々に向けて、成年後見制度に関する紙芝居口演を行っていただきました!



市民後見人フォローアップ研修



せんべいさんの紙芝居口演

○重層的支援体制整備事業

高齢・障がい・子ども・生活困窮など分野の枠を超えて、住民の

方々の複雑化・複合化したニーズに対応する支援体制を作り上げるための事業に令和4年度より取り組んでいます。

1.まるごと会議開催(旧8050ネットワーク会議)

複合困難世帯支援のため関係機関のネットワーク構築を目的として開催しています。

※複合困難世帯…認知症の親と障がいのある子どもがいる等、家庭の中で複数の支援を必要とする世帯



8050ネットワーク会議

2.おうち会議開催

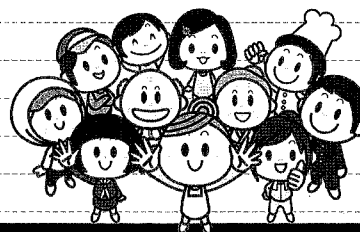
複合困難世帯に関する相談を受け付け、支援チーム形成・支援計画の作成・進捗管理を行います。

○持続可能な権利擁護支援モデル事業(厚生労働省モデル事業)

成年後見制度や日常生活自立支援事業では、利用対象者が決められており、制度の狭間でサービスを受けられない方がいるという現状があります。この事業では、ご本人の能力や状況に応じた必要な権利擁護支援を行い、新しい権利擁護支援を創出します。簡易的な金銭管理サポートのほか、生活上の様々な判断(引っ越し・入所・高額な買い物など)でご本人の意思決定をサポートします。

○貸付・給付事業

様々な事情により生活にお困りの方に対し、資金の貸し付け(愛情資金貸付・生活福祉資金)を行っています。



お問い合わせ先

京極町社会福祉協議会 京極町生活サポートセンター
TEL 0136-42-3681 担当:後藤健太 中村柚乃

第7回 共楽クラブだより

共楽クラブとは

共楽クラブは昭和40年2月7日に設立した相互扶助団体です。今年で創立58年目になりました。共楽クラブでは昔から変わらぬ『会員相互の親睦と融和』という目的のもと、様々な活動を行なっております。

『共楽クラブだより』では、当クラブで行われた行事や活動などをピックアップして掲載いたします!

ご興味のある方は、【事務局:福祉センター ^{あそ}阿蘇】までお電話ください!

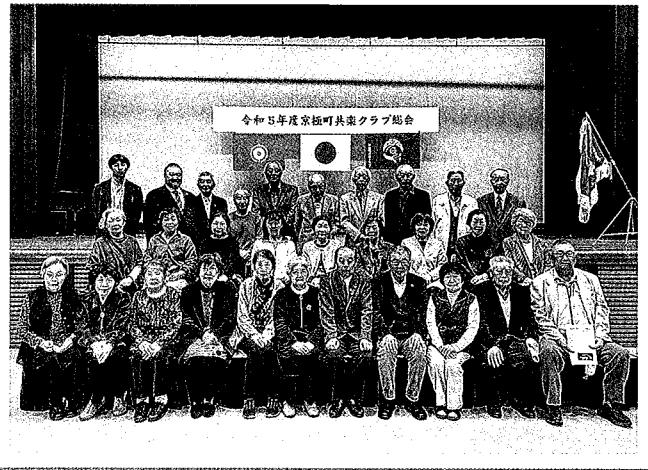
総会を開催しました!

2023.5.26(金)。令和5年度の総会を開催致しました。

コロナウィルスも2類から5類へ分類が変更され、経済活動も活発化している中ではありますが、大事を取り今回も総会の後の飲食は行いませんでした。

しかし、これをきっかけに久しぶりに顔を合わせる会員さん同士もあり、【人と人が出会う場】というのが大切だと改めて感じさせられました。

今年度も共楽クラブがさらなる飛躍を遂げられるよう、事務局としても微力ながら力添えさせていただきます。



共楽クラブ事務局 京極町社会福祉協議会(阿蘇・三条) 42-3681

訪問介護事業所



令和4年度事業報告

介護保険、障がい福祉サービス共に通院支援が増加傾向となりました。交通手段や院内の付き添いに困っている利用者の方が多数いる中で要介護度によっては院内の付き添いができないケースや公的サービスで対応できない生活・家事援助など幅広い支援内容が訪問介護事業所には求められています。

障がい福祉サービスにおいては移動支援事業により、生活面での困り事に対して適用し利用されるケースが多くありました。

今後は軽度認知症の方や移動に介助が必要な方に自費サービスとして専門職が支援する仕組みを検討し地域のニーズに応える事業所を目指します。

令和5年度事業計画

○住み慣れた地域で在宅生活を送ることができるよう、ご本人やご家族のニーズに沿った訪問介護サービスを提供します。

○専門職として地域にある社会資源との連携を図りながら社会参加、自立支援への充実に努めます。

○認知症施策の推進

京極町社会福祉協議会 訪問介護事業所(担当 山本・片桐)

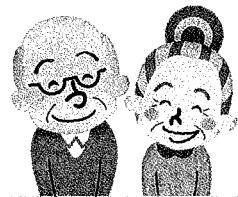
居宅介護支援事業所

令和4年度 事業報告

- ① ご本人ご家族が望む自宅での生活継続のため、必要なサービス提供を行い、望む生活を一緒に考える1年となりました。入院を機に施設入所の方もいますが意思を尊重しながら支援させていただいています。
- ② 認知症施策については、ご本人ご家族が自宅で安心して暮らし続けられることを第一に認知症サポーター養成講座4回、認知症初期集中支援チーム員会議5回、どんぐりカフェ11回、認知症ガイドブック更新等の認知症推進についての取り組みを行いました。

令和5年度 事業計画

- ① 要介護の状態になっても、ご本人が望む生活に寄り添い、意思を尊重しながらご家族と共に在宅生活を見守り、支援を行っていく
- ② 見守り体制を行い、認知症の方にとって住みやすい地域づくりを地域の方・関係機関と共に推進していく



今年度も定期的な自宅訪問継続からご本人の意向や心身状況に寄り添い、ご家族がひとりにならない支援体制を関係機関と作っていきます。認知症施策については京極町にとって身近な認知症地域支援推進員として取り組んでいきます。

認知症になっても安心して暮らせる町づくり 「認知症地域支援推進員」として 活動しています



本間

佐藤

認知症について学び、地域で支える
「認知症サポーター養成講座」の
開催受付・調整しています

認知症の方やその家族が“ほっと”できる場
「どんぐりカフェ」(認知症カフェ)
の開催の後方支援や参加された方の相談
対応しています

認知症に関する困りごとを検討する場
「認知症初期集中支援チーム員
会議」の開催をして、精神科医師・看護
師・役場・地域包括支援センターと連携し
ています。

町にある団体や活動への参加
町の方とお知り合いになり、認知症に対す
る相談が気軽にさせていただけるよう、町に
ある団体や活動されている所へ訪問させ
ていただいています。

お問い合わせ

京極町社会福祉協議会
居宅介護支援事業所

☎0136-42-3681 (担当:佐藤・本間)

京極町地域包括支援センター

令和4年度事業報告
令和5年度事業計画

《今年度の目標》

I. 2030年に後期高齢者となる65~79歳の個別課題、地域課題の解決に取り組みます

1. 地域ケア会議の推進

- ①各地域支援事業との連動を意識した地域ケア会議の体系の見直しを町と共に進めていきます
- ②地域ケア個別会議から発見された地域課題の種や自立促進要因の種を集め、それを特定するための手法を町と共に検討し進めていきます

2. 前期高齢者対策

- ①令和3年、4年と町と共に65~79歳の方を対象に介護予防把握事業とくらしのアンケートを実施してきました。令和5年度は後志広域連合が実施する生活圏域ニーズ調査の結果を分析し、当町の高齢者の現状を把握します。また前回ニーズ調査との比較も行い、取り組みの評価も行っていきます
- ②ニーズ調査から、今後要介護になる可能性が高いハイリスクの方を抽出し、介護予防センターや生活支援コーディネーターと共に個別アプローチを行い、介護予防や社会参加につなげる支援を行います
- ③積極的な支援介入が必要な方や社会的に孤立している方などを発見し、必要な支援や適切な関係機関への橋渡しを行います
- ④町民に対し、様々な媒体での介護予防の啓発、京極町の高齢者サービスの周知を行います（ホームページ、フェイスブック、インスタグラムなど）
- ⑤ハイリスクの方に効果的なアプローチができるよう職員のスキルアップに取り組みます

II. 地域包括ケアシステムを構成する各分野と協働し、高齢者が住みよい地域づくりを推進します

1. 医療

- ①医療介護連携コーディネーターと協働し、高齢者が安心して受けられる医療環境を整えます
- ②医療機関やかかりつけ医との連携強化に取り組みます

2. 介護

- ①リハビリ訪問や自立支援型地域ケア個別会議を開催し、ケアマネジャーやサービス事業者が自立支援を念頭に置いたケアマネジメントやサービス提供に努められるようにします
- ②居宅介護支援事業所との連携に心がけ、切れ目のない支援に心がけます
- ③町内ケアマネジャーの資質向上を目的に研修会を開催します

3. 介護予防・生活支援・社会参加

- ①介護予防センターと協働し、町の高齢者の特性に応じた介護予防事業を展開していきます
- ②高齢者の生活支援ニーズを協議体や生活支援コーディネーターに積極的に発信し、資源調達や資源開発に結び付けます
- ③高齢者の社会参加促進に向け認知症地域支援推進員、協議体や生活支援コーディネーター、社協総務課、NPO等との連携を心がけます

4. 住民・住まい

- ①鍵預かり事業や緊急医療情報キットの活用を推進し、高齢者が安心して暮らせる環境整備に取り組んでいきます
- ②いきいきシニア訪問で80歳到来者と同居高齢者との顔の見える関係づくりを行います
- ③みまもりウォーキングを地域安全協会、健全育成会、警察と連携し推進します
- ④民生委員の高齢者訪問をサポートし、気になる高齢者の対応に関する相談にのります
- ⑤おうち会議を活用し、8050問題の解決に向けた支援体制づくりに協力します
- ⑥平時からの高齢者の防災対策として、災害アセスメントシートや連絡網、トリアージ名簿の整備とケアプランに災害への備えを明記します



《昨年度の主な活動》

I. 包括的支援事業

1. 高齢者の主な相談状況（相談件数の多い順）

- ①介護保険41件 ②認知症16件 ③医療関係12件
- ④高齢者サービス7件 ⑤総合事業6件

2. 権利擁護

- ①消費生活相談ネットワーク会議 2回開催
- ②消費生活街頭啓発活動 7名参加（ネットワーク会議構成員）
- ③高齢者虐待研修会開催 19名参加（連携協議会構成機関）
- ④高齢者虐待対応4件 計19回話し合いを開催

3. ケアマネジャー支援

作業療法士によるリハビリ訪問 2回（事例4名）開催

4. 個別支援

- ①定期訪問 65名（延490名）
- ②いきいきシニア訪問
満80歳になった方と同居する高齢者 計30名
※うち新たに介護予防事業対象となった方3名、定期訪問必要者2名

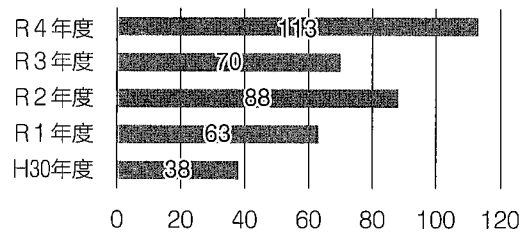
5. 地域づくり

- ①災害に強いまちづくり事業
座談会4回開催、防災訓練1回開催
- ②みまもりウォーキング 登録者 26名

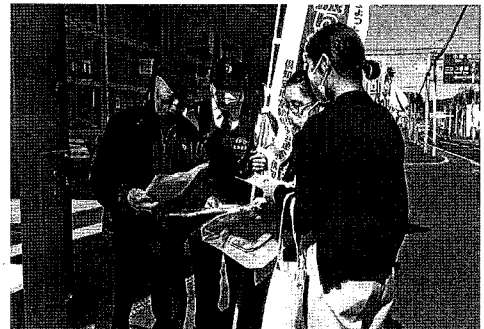
6. 地域ケア会議の取り組み

- ①地域ケア個別会議 5回（事例5名）開催
- ②自立支援型地域ケア個別会議 2回（事例6名）開催
- ③地域ケア推進会議 5回 開催
検討した地域課題
「介護予防事業における医療との連携が希薄である」
「本人の選択と本人・家族の心構え」を促す働きかけやスキルが不十分である」

総合相談年度別実績



消費生活街頭啓発活動の様子



防災訓練の様子



II. 総合事業

1. ケアマネジャー業務

49名（総合事業利用者32名・要支援で介護サービス利用者17名）

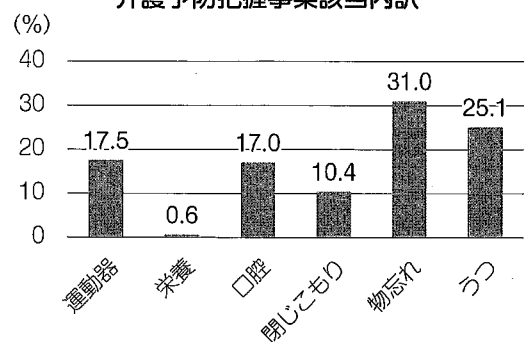
2. 介護予防把握事業

- ・65歳以上の方617名（68.4%）に基本チェックリストを実施
- ・介護予防が必要と判断された項目（多い順）
- ①物忘れ予防 ②うつ予防 ③運動機能
- ④口腔ケア ⑤閉じこもり予防 ⑥栄養改善

3. ハイリスクアプローチ

65～79歳の方で要介護になる心配のある方31名に必要な取組み・サービスなどの紹介、うち7名に支援開始

介護予防把握事業該当内訳

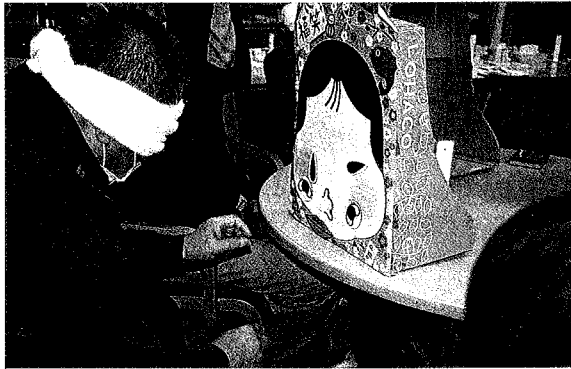


デイサービスだより

【令和4年度事業報告】

利用登録者数は、下の表の通り減少傾向にあります。介護予防が盛んで、要介護者が減少傾向にある事は喜ばしい出来事ですが、今後も要介護者の利用登録者数は減少していくことが予想されます。現在のデイサービスは多種多様なニーズが求められています。病気や障害により外出が困難な方は、デイサービスを利用する事で他者と交流する事ができています。また、運動や脳トレをする事で、身体機能維持や認知症予防に繋がり、健康的な生活を継続する事ができます。デイサービスは大切な社会参加の場となり、生きがい作りの場となっています。今後も、可能な限り自立した在宅生活を維持できるよう支援していきます。体調不良で休んだ場合は、体調確認等の連絡を行うと共に振替利用をお勧めします。そうした事で病状悪化防止となり、在宅生活継続に繋がっています。

(レクリエーション風景)



令和4年度 利用状況 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和3年度延べ人数	285	266	316	302	301	281	291	276	267	219	198	241	2,376
実人数	34	33	33	33	32	33	31	32	29	28	27	27	272
令和4年度延べ人数	204	186	178	176	172	166	179	135	185	137	167	187	2,072
実人数	22	25	20	22	20	20	20	21	20	19	19	20	248

※令和3年度は4月～6月までは通所介護 7月以降地域密着型 通所介護

【令和5年度事業計画】

(重点目標)

1. 社会参加を意識した生活を送れるため通所サービスを利用する意義を見出せるよう、個別支援計画作成に重点を置き支援する
2. 外出や地域に出ていく機会、屋外での活動を増やし利用者の活性化を目指す
3. 利用者のサービス利用満足度を高めるため、職員の資質向上と効率化を図る

- 屋外活動やボランティアの受け入れに関しては、今後積極的に行い地域の方々が気軽に安心して利用できる場を提供します。
- 啓発活動について、広報・SNS・Facebook・Instagram等で情報を発信していく予定です。

京極町介護予防センター

令和4年度事業報告
令和5年度事業計画

① 一般介護予防事業

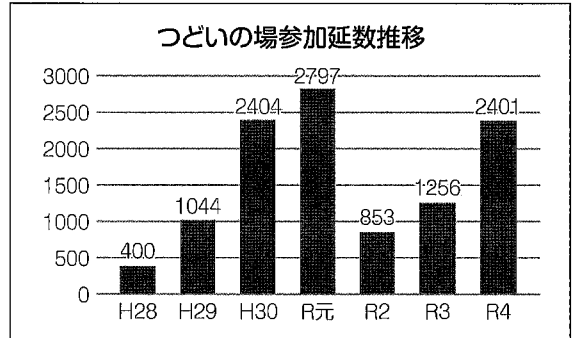
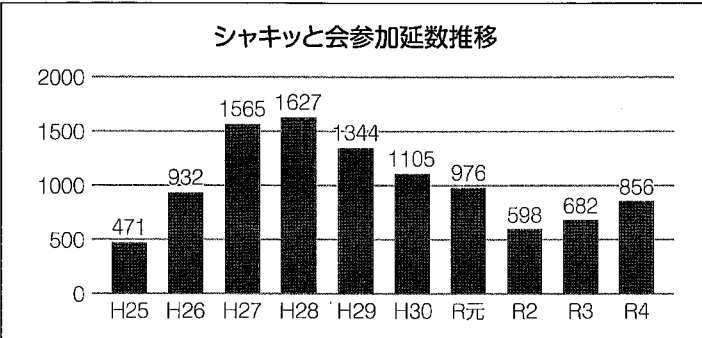
つどいの場：令和4年度はつどいの場サポーターが10名養成され、新たに「ふれあいの会」が誕生しました。令和5年6月現在、町内に11か所のつどいの場があります。参加延数はコロナ前に戻りつつあります(下図参照)。令和5年度も新規グループの立ち上げを支援していく予定です。



シャキッと会：コロナの影響がありますが、参加延数は回復しています(下図参照)。参加者の皆さんに介護予防健康講話(全12話)を視聴していただきました。PR動画を作成したので令和5年度は町内でアピールを行う予定です。



元気湧く湧くウォークラリー：令和4年度はシール設置場所を14か所に増やしました。68名(男13名/女55名)の参加がありました。令和5年度はシールをスタンプに変更して行います。

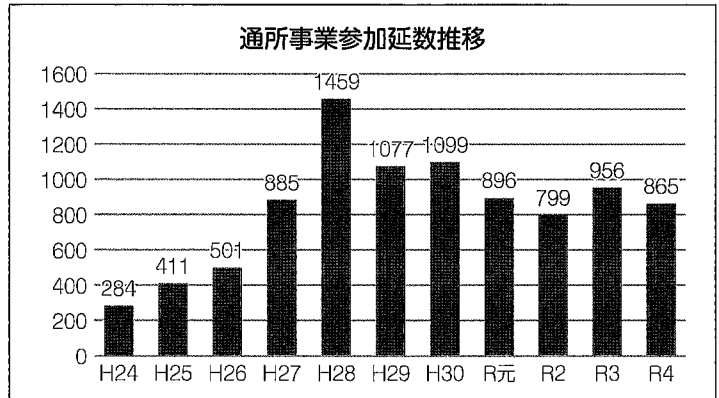


② 介護予防通所型サービス事業

ミニデイサービスにこっと(通年)
年間通して二十数名の方が利用されています。必要に応じて冬期間のみの利用もあります。

「にこっと元気アップ教室」(1~3月)
65~79歳を対象とした事業です。3か月間の教室後、社会参加で介護予防を継続できるよう支援しています。

*上記2事業分の参加延数は右のグラフの通りです。



③ 介護予防訪問型サービス事業

にこっと短期集中リハビリ訪問サービス
令和4年度は1件の利用がありました。

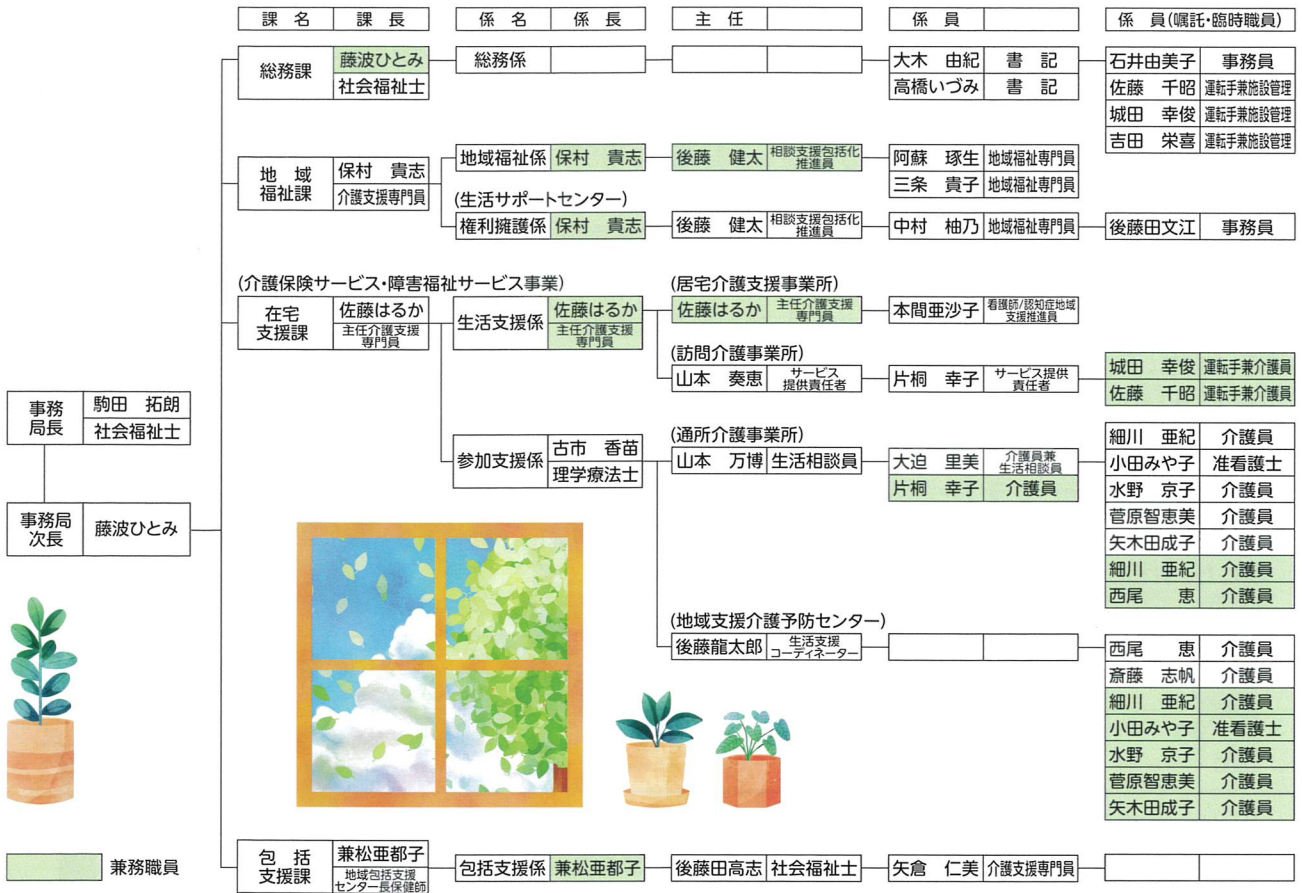
④ 生活支援体制整備事業

令和5年度から職員体制が変更となり、「地域のささえあいの活動」や「高齢者の生きがいづくり」の事業も担っていきます。



【令和5年度 京極町社会福祉協議会 組織図】

令和5年6月1日



野村正次様に感謝状を贈呈しました

野村様は、昨年10月に90歳を迎えられた節目に「感謝を表したい」と、社会福祉協議会に多額の寄付をしてくださいました。そのご厚意に対し、社会福祉協議会会長より感謝状を贈呈いたしました。

頂いた寄付金は京極町の福祉事業に役立っています。

このたびは、ありがとうございました。



寄付・寄贈に感謝いたします

【期間】令和4年12月～令和5年2月

【寄付】「福祉基金へ」

- 後藤 壽一様より、母の故 後藤 シズ様の生前のお礼として
- 長谷川 喜以様より、京極町の福祉の為に
- 砂子 和美様より、母の故 持田 道子様の生前のお礼として
- 加賀谷 多美子様より、父の故 小倉 民雄様の生前のお礼として

【寄贈】

- 有末 孝子様
- 北海道コカ・コーラボトリング(株) 小樽営業所様
- 深澤 壽夫様 深澤 清子様
- 坂本 良子様 吉川 艶様